

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370102115		
法人名	医療法人 祐基会		
事業所名	グループホーム六花苑 1Fユニット		
所在地	熊本市中央区帯山4丁目6-31		
自己評価作成日	平成31年 1月 10日	評価結果市町村受理日	平成31年3月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成31年 1月 23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○家庭的で安心できる環境の中で、利用者の「想い」や「その人らしさ」を大切に、笑顔で自由に生活できるよう援助しています。年間を通した季節の行事、手作りの料理やおやつ、ロビーの壁面を彩る季節感あふれる手作りの壁面飾り等に取り組み、利用者楽しく生活して頂ける様心掛けています。
 ○同法人内の医療機関(帯山中央病院)が隣接しているため、日常の健康管理から救急時や病状悪化時などの対応がスムーズにでき、安心できます。
 ○認知症の進行を遅らせ予防する効果が注目されているアートセラピー「臨床美術」を継続的に取り入れ、作品制作の楽しみや達成感は勿論、作品作りは五感を刺激し脳を活性化し、上手い下手に捉われず表現できる解放感と褒められる喜びが自身の存在価値を高め、生きる喜びが引き出されます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は2年前に見直しを図り、新たにホームの指針となった理念を、日頃の入居者との生活にどのように繋げていくかを課題としてケアに取り組んでいる。朝礼や会議、チャレンジシートでの振り返りは各自の自己分析の貴重な機会となっている。運営推進会議を通じ入居者の暮らしぶりを地域へ発信し、家族の参加が少なかった現状に、参加を促す手段としてアンケートを実施するなど工夫の跡が窺える。また、家族意見の収集に向け、20項目の独自のアンケートを行い、ホーム運営に反映させている。入居者や家族の思いに応じて、この一年で数例の看取りを支援したことは更に家族との信頼を強固なものとし、法人医師の看取りへの積極的な考えもホームの力となっている。今後も地域との連携を深め、入居者の支援に邁進されることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアーに掲示し、毎朝の申し送り時には全員で唱和している。ケアを実施する判断基準は、理念にあることを共通認識とし日々実践に繋げている。また、「理念に基づいた介護」を部署目標とし、法人の人事考課制度の中に組み入れ、定期的に評価できるようにしている。	法人理念「良質な医療、介護、福祉の提供」をもとに2年前に理念を見直し、現在の内容としている。入居者の想いを大切にしながら、家庭的で安心した生活を送る事を柱としており、毎朝の唱和や会議での振り返り、チャレンジシートを活用して自己評価の機会を持っている。	職員はケアの原点に理念があることを認識しており、振り返りの機会には文言を更にかみ砕き、「家庭的で安心した生活」とはどのようなものか、職員の考える内容と入居者の求めているものが同一なのかなど、一步踏み込んだ検討の場を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の買い物は地域の商店を利用している。また、自治会に加入し回覧版のやり取りや、防災訓練、運動会等の町内行事に積極的に参加し、地域の方と交流を図っている。また、老人会等のボランティア訪問や文化祭への参加等は、利用者にとっても待ち遠しい楽しい行事となっている。	ホームは地区の隣保班に加入しており、回覧板のやり取りから地域情報を収集したり、入居者の参加は限られるものの、防災訓練にも出かけている。ささえりあ主催の地域との懇談会には職員が出向き、小学校での「キッズサポーター講座」に管理者が参加し、認知症啓発に貢献している。老人会「みゆき会」の折り紙ボランティアも継続されており、入居者とも馴染みの関係になっている。	中学生のナイスライを母体病院で受けており、今後はホームへも足を運んでもらうような働きかけを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で自治会・老人会・民生委員の方々に認知症についての知識や対応要領等について説明助言を行っている。また、見学や入居申し込みに来られた方に対して、介護相談に対応したりしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、運営方針・サービス状況・利用者の状態や活動内容等を写真や資料を基に報告し、情報・意見交換を行い、利用者のご家族、地域の方々から要望や助言をいただきサービスの向上に努めている。会議にはスタッフも参加し、自己紹介や意見交換をし地域の方々と親睦も図っている。議事内容は参加していない職員やご家族へも配布し状況をお知らせしている。	2ヶ月毎に隣接する地域交流家屋を会場として開催しており、包括職員や地域代表者、家族や法人関係者が参加している。行事や事故報告、入居者の健康状態を含め現状を伝えている。中でもプロジェクターを使った入居者の生活ぶりは、参加者に好評である。義務付けとなった身体拘束への取り組みも早く、会議を利用し参加者にホームの姿勢を示しながら、共に考える時間を持っている。	運営推進会議の内容は家族へ送付する書類の中で必要な事項を発信しているが、今後も家族が直接会議に参加されるような働きかけを継続いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に包括支援センター職員の参加があり、意見交換し情報を得ている。また、介護相談支援員の訪問時意見交換を行い、また報告書により全員が内容を把握しケアに反映させている。必要時行政機関へは報告相談等実施している。	運営推進会議に参加する包括支援センター職員と情報を交換し、包括支援センター主催の行事に職員が出向きながら協力体制を築いている。市の相談員が2ヶ月ごとに来所しており、入居者の声を収集したり、相談員の懇親会に管理者が参加するなど、体制づくりが行われている。また、書類提出や外部評価結果を持って役所を訪れ、担当者とは有効な関係を継続している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内勉強会で身体拘束をしないケアについて再確認し職員の意識を高めている。非常口にはセンサーを設置し、職員が一人になる夜間帯等は不審者侵入防止も兼ね施錠をしている。スピーチロックとならないように言葉かけにも注意している。車椅子は移動手段として使用し生活スタイルの保持に努めている。	本年度は身体拘束への取組を推進会議を通じて外部へ発信しており、参加者と共に拘束や虐待が入居者に及ぼす弊害についても認識を共有している。夜間帯の玄関ドアへの施錠や、人感センサー及びセンサーマットについては家族から承諾を得ている。管理者は夜間帯の様子を見ながら、入居者のスムーズな入眠に繋がるよう、可能な限り夜勤者とともにケアにあたっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止や不適切ケア見直しの研修会に参加し、ミーティング時に勉強会を行い、言葉使い、態度等も虐待にならないよう互いに注意し合い意識の統一を図っている。また、利用者の入浴の際に、全身状態の観察を行い、常に状態変化に注意している。また、職員がストレスを溜めこまないよう心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用されている方もおり、プラン説明や面会時に後見人の方から意見、要望、助言を頂き、学ぶ姿勢を心掛け、関係性を深め、職員間で共有し支援が円滑にいくよう心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明は、相手の年齢や理解度に応じた分かりやすい説明を心掛け、質問には納得されるまで説明し同意を得ている。説明は主に管理者が実施しているが、変更内容は職員にも周知させ問合せにも対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族へは運営推進会議参加時やケアプラン説明時、面会時等に直接意見要望等を確認している。玄関に意見箱を設置しているが、意見少なく家族アンケートも実施している。クリスマス会には多数の家族が参加し、互いに意見交換がなされている。	家族へ送付する月の便りに、各報告と共に入居者の様子を伝えることで安心に繋げている。ケアプランの説明や面会時には家族からの意見をゆっくり聞くようにしており、申し送りノートに記録しながら共有に努めている。管理者は家族アンケートの実施により、家族の意見を引き出すよう努力している。	アンケートは家族の意向を把握する手段として運営に活かされている。今後は、作成の段階から全員が関わり、聞きたい内容を検討することで、更に充実するものと期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議や毎朝の申し送り時を利用し、職員の意見を聞きながらサービスの向上に反映できるようにしている。また、必要時は職員意見を介護事業部長や関係部署へ直接意見具申している。勤務割は職員の希望を考慮し各ユニットリーダーと共に作成している。	職員は日々の申し送りや毎月のスタッフ会議で、ホームの現状を共有し、意見を出し合いながら運営に反映させている。スタッフ会議には介護事業部長が参加されることもあり、職員の意見を直接伝える場にもなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	組織の活性化と人材育成のため、法人内で人事考課制度が導入されており、年2回各職員ごとに目標、実施、評価を面接しながら行い、賞与等にも反映されている。各業務内容の精査・整理を指示、休憩時間を確保できるように働きかけている。労働時間は守られているが、超過勤務の場合は超過勤務手当が適正に支給されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の案内等を職員に広く広報し、法人内研修や外部研修の機会を作っている。法人内研修不参加者は各自資料を確認しレポートを提出している。スタッフ会議時には外部研修の報告を通して、他の職員への情報提供、共有を図っている。法人内研究発表会には毎年参加し発表している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	看護協会や県のGH連絡会からの情報収集に心掛け、積極的に研修会に参加している。また、包括支援センター主催の地域推進協議会懇親会に参加し他事業所との情報交換を実施。法人内グループホームとは常に情報や事例を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に関係者やご家族から情報を得たり、入居面談時からご本人やご家族に心身の状況や希望を確認し、できるだけご本人の意向に沿った対応を心掛けている。ご本人が安心して生活できるようによく観察・声掛けし、必要時はご家族の面会などの協力もお願いしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	キーパーソンを中心にご家族、後見人の方の話を傾聴し、出来るだけ相手の立場で考え、思いを受け止め、方向性を調整し、「ご家族と共に」利用者を支える事が出来るように関係づくりに心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談や要望をもとに、主治医の意見も取り入れ、ご本人やご家族にとって今何が必要なのか優先順位を考え、納得が得られ安心して支援が受けられるよう検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の自主性を尊重した上で、できる事を皆で行う雰囲気作りをしている。職員と利用者は介護する・される関係だけではなく目線を同じくするよう心掛け、喜怒哀楽を共にしながら互いに支え合い楽しく過ごせる関係づくりを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人にとってご家族の存在、支援はかけがえのないものだということを常に念頭に置き、また、ご家族にも伝え、共に支えて行く関係作りを心掛けている。ご家族へのお便りを毎月発送し、その中で利用者の1か月間の様子をお伝えしたり、行事の写真を入れ、ホームを身近に感じて頂けるように工夫している。担当スタッフからのコメントを同封しているが、利用者の生活の様子がよくわかり、また職員を身近に感じられると好評である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々の馴染みの美容院や友人の来所等関係の継続や馴染みの場所での買い物等、出かける場所を積極的に作り、生き生きと生活が継続出来るように、社会との関わりの支援に努めている。特に大切な家族との関係が途切れないよう面会や外出を依頼し、面会時はゆっくり過ごしてもらえるよう配慮している。	入居者がこれまで利用していた美容室や商店での買い物が継続できるような支援、家族の協力による外出や外食の機会が持たれている。ユニット間の交流や臨床美術などの楽しみ事、居室を自分好みにレイアウトする方など、入居者にとってホーム自体が馴染みの場となるような取り組みが続けられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話やかかわりを観察、見守りを行い、効果的な席替えを検討したり、臨床美術や、同じ作業、レクリエーションを通して利用者同士がコミュニケーションを図れるように関わっている。トラブルになりそうな時は、職員が間に入りトラブルを回避している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他の事情で、退居されサービスの利用が終了した場合も、入院先を尋ねたり、ご家族や相手先に、入居中の状況、習慣、好みや気づき、ケアの工夫等の情報を提供し、相談に応じ安心して継続した支援が行えるよう努めている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人おひとりの思いや意向について、否定的な言葉は使わず、ゆっくり心を寄せ、思いを把握するように心がけ、混乱や把握が困難な場合は、時間をかけ寄り添い、ミーティングを重ね問題解決に取り組み、家族からも情報を収集して本人の思いに添うよう努めている。	職員は入居者との普段の関わりから思いを組み取り、ケア会議で検討しながらプランに繋ぐようにしている。家族の意向は便りなどを通じ、入居者の現状を把握してもらったうえで、面会時や行事の際に意見をもらう様に工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の馴染みの暮らしや、大切にされている事、援助を受けられる際のご本人の嫌な行為や言葉かけ等、生活歴やフェイスシート、ご本人に関わって来られた方からの情報等を把握し、戸惑いが無く生活が継続出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事、休養、活動、睡眠、一日の過ごし方等個人個人の状況や気付きを、個人カルテや連絡ノート等に日々記録し、職員間で情報共有し、勤務交替時は引き継ぎを確実に実施し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の希望に沿ったプランを作成し、必要時追加・変更を行っている。入居者を職員の担当制とし、定期的にモニタリングを行い、毎月のスタッフ会議等でケアを検討し、利用者個々に合わせた自立支援ができるよう介護計画に反映させている。	入居者・家族の意向を優先し、担当職員の意見やケア会議での検討課題をプランに盛り込み立案している。定期的(3ヶ月)な評価に加え、現状を見ながら必要な時点で見直し、入居者の状態に即した内容としている。入居間もない方が、1日も早く安定した日々を過ごせるように、プランには本人の興味を見極め、得意分野への参加や他者との関りを上げ、まずはホーム生活に馴染んで貰うことを盛り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の担当者を中心に日々の実践の中で気づきやケアの工夫等、介護記録に記入し、職員間で情報の共有に努め、必要時には、介護計画の見直しを心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お一人おひとりのニーズに合わせ、ボランティアの支援やご家族の協力を得たり、その時のニーズに応じて柔軟な対応で支援が出来るように心掛けている。認知症の進行を抑えるために、「臨床美術」を積極的に実施し、また訪問理美容を希望される方には調整している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加、近所への散歩、ボランティアの訪問等、馴染みの関わりの働きかけで、生き生きと安全に安心した生活が継続出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内医療機関による訪問診療、専門医（精神科・眼科・歯科）の往診（訪問診療）等を選択できるような医療環境を提供するとともに、体調変化時はご家族に連絡の上専門医等への通院支援も実施し、ご本人及びご家族の希望の医療が受けられるように支援している。	入居時に希望のかかりつけ医を確認している。現在、全員が隣接する法人の医療機関をかかりつけ医とし、定期的な訪問診療や通院を支援している。毎月の個別便りには、受診結果や健康状態について記しており、検査（CTなど）が必要な場合は、事前に電話連絡などで了承を得て実施している。専門医の受診は、基本的に家族対応としている。隣接する医療機関や看護職員の配置は、家族の安心にも繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護職員がおり、また、法人内医療機関の支援もあり「看護師との24時間連絡体制」は確立されている。利用者の身体の異常、病状悪化時は適宜報告相談し、お一人おひとりの健康管理や医療支援に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して医療が受けられるように、日々の暮らし方や大切にされていること等の情報提供を行い、ご本人ご家族が安心されるようにご家族との情報交換に努め、医療関係者、ご家族と協議を重ね早期退院に向けて取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合における指針、事前指定書を説明し確認している。病状が重度化した場合は、状況に合わせてご家族・医師・看護師・関係者と早期に話し合いを行い方針を決め支援している。家族アンケート、看取りに関する勉強会、手順や物品の準備等実施しホームでの看取り体制を整備した。今年度は利用者3名のホームでの看取りを実施した。	入居時に重度化した場合の対応について、指針や事前指定書をもとに家族へ説明を行っている。実際そのような状態になられた場合に、家族と医師をはじめ関係者と方向性を話し合う機会を持っている。看取りに関する家族へのアンケートにより、今の気持ちを確認し、勉強会の中で手順に加え、思いに添える支援について共有する機会が持たれている。今年度、看取り支援に理解の深い主治医の協力の下、3名の方の看取りが行われており、支援後はカンファレンスにより、本人を偲ぶ時間が持たれている。	ホームでは家族が看取りの時間を一緒に持ちたいと希望をされた場合は、簡易ベッドなど宿泊も出来るよう準備している。今回の支援では、体をさすられることで安心されるなど、家族に伝えながら最期の時間を過ごしてもらっている。今後も普段の関わりを大切に、ホームに出来る支援に努めていかれる事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に適切な対応が出来るように、急変時の連絡体制、AEDの操作要領等マニュアル化し実技指導も入れながら訓練している。スタッフ会議の際、ヒヤリハットや事故報告書の振り返りで介護技術の習得やレベルアップに努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内で年2回(日中と夜間想定)、地域でも年1~2回の訓練に利用者と参加し、地域での協力体制が築かれるよう努めている。台風接近時等はマニュアルに従い事前準備を実施している。	今年度は避難訓練を1回実施しており、年度末に2回目が予定されている。また、地域の訓練にも入居者数名と参加し、地域との協力や災害への意識を高める機会となっている。災害備蓄としては、冷凍のご飯やビスケットなどの食べやすいものを確保している。	台風接近時などは、マニュアルに沿い事前準備を行っており、今後も地震をはじめ自然災害について風化させないよう、会議などに挙げていかれることを期待したい。また、避難訓練には家族や運営推進会議のメンバーに参加を呼びかける事も良いと思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳をもって言葉をかけ対応するように心がけ、個人の人格を損なう事のない様に接している。人生の先輩である事を念頭に置き、不適切な言葉遣いや大声での会話等は互いに注意しあっている。入居時には利用者の呼び名をご本人やご家族に確認している。排泄等の介助時は必ずドアを閉め実施している。	入居者を人生の先輩として、言葉使いや接し方など失礼に当たらないよう、会議などで周知徹底を図っている。管理者は時に職員の声の大きさなど気になる場合もあり、職員間でも注意し合える環境の大切さを語っている。呼称は入居時に本人や家族に確認しており、苗字や下の名が安心される方もあるが、フルネームでの対応が中心である。同性介助については、特に入浴では女性入居者が同性介助を希望をされる事もあり、柔軟に応じている。	居室へ入る際は、在室の有無に関わらず、声掛けやノックの徹底を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来るように場面作りに心掛け、ご本人の出来る事、出来なくなって来ていることや、やりたくない事を表情や言葉の中で見極め、出来るだけ、ご本人の今の思いに寄り添い支援できるようにスタッフ全員心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々生活のリズムを考慮しながらも、職員側の都合やペースに合わせた支援ではなく、お一人おひとりのペースに添い、その日の状態に合わせた柔軟な暮らしを心掛け支援している。食後の休息や就寝・起床時間等もご本人の体調や様子に合わせ対応、レクリエーションへの参加や家事手伝いも、本人の意向を確認している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔に気を配り、出来る限りご本人の要望にかなう身だしなみや季節感に合う支援に心がけている。洋服選びを一緒にいりオシャレを楽しむ雰囲気を作っている。お化粧品等も希望者へは誕生日会時等に実施されるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人に合わせた食形態、食事量とし、献立の説明等し、スタッフが利用者と一緒に楽しく会話をしながら食事をしている。料理の継ぎ分けや、茶碗拭き、お盆拭き、テーブル拭き等利用者と一緒に食事準備や後片付けを行っている。食事中は、台所の作業も中断し静かな音楽をかけ落ち着いて食事出来る環境を整えている。検食者は検食簿に意見を記入し、業者への調整や調理に反映させている。献立は季節に応じたものとなっているが、寿司会食、おせち料理、パン朝食、レクリエーションとしておやつ作りを実施する等食を楽しめるよう工夫している。	入居者が調理に関わる機会は殆どないが、テーブルやお盆拭き、後片付けなど出来る事を一緒に行っている。調理担当者を中心に職員も台所に立ち、入居者の嚙下力に応じた食形態で準備している。食事中は席の配置や入居者との会話を楽しめる環境に努めており、1名の検食者が同じものを摂り、今後に活かせるようなコメントを記録に残すようにしている。行事食をはじめとしたイベント食、おやつ作りは入居者も楽しみにされており、特に元旦の朝食はパンバイキングとし、昼食にゆっくりおせち料理を味わってもらっている。	ホームは米や味噌・醤油など専門店から配達されている。このような取組についても家族へ伝える事で、安心に繋がるものと思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量(飲水量)のチェック、体重測定等により栄養状態の把握をし、利用者の状況により声掛けや食事介助を実施し、栄養補助食品の利用や、刻み・トロミ・ミキサー食等の食材の工夫や、食器の変更等工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後お一人おひとりに合った声掛けや援助方法で口腔内の清潔保持に努めている。ご本人、ご家族の要望や必要性をもとに訪問歯科の導入を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員間で話し合いを持ち、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、可能なかぎりトイレでの排泄を目指し、利用者に合わせて排泄支援ができるようにしている。昼夜別にオムツを使い分けたり、夜間はポータブルトイレを使用している方もいる。	一人ひとりの排泄パターンを共有し、布パンツやパットの併用、夜間のみポータブルトイレを使用するなど、排泄用品についても適切なものを検討している。排泄用品を家族が購入される場合は、種類など説明を行っている。便秘がちな入居者も多いが、好みの飲料による水分補給や、起床時の冷水や牛乳など自然排便に繋がるよう努めている。自立でトイレに行かれる方もあり、特に不快なく使用できるよう、掃除や流し忘れなどないように小まめに確認している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロール表で各個人の排便状況を把握し、好みの副菜や飲み物等の工夫で必要な食事・水分量が摂取できるように留意している。便秘時は、早朝の冷水・牛乳等摂取や体操、腹部マッサージ等で改善を図り、自然排便を心掛けているが、必要時は医師の指示にて緩下剤の与薬支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2～3回を目途に入浴予定はその都度決めていくが、声かけを工夫し無理強いをせず、気分よく入浴して頂くよう留意している。身体状況により1人ないし2人で介助し安心してゆっくり入浴できるようにしている。必要な方へは足浴も実施している。入浴後のスキンケアも必ず実施している。拒否が見られる方には、時間を変えたり、スタッフを替えたりしながら対応している。	入浴は無理強いすることなく、気持ちよく入ってもらえるようにしている。基本的に週2～3回の支援と、皮膚疾患がある場合には、足浴を併用している。身体状況からシャワー浴が中心の方もおられるが、希望があれば2名の職員で安全に湯舟に浸かってもらうようにしている。シャンプーなどは、好みのものを聞き取り、職員が購入し準備している。脱衣所や浴室も整頓や掃除により、気持ちよく使用できるようにしている。入浴剤や柚子湯など、変わり湯も継続して取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中必要な方には食後の休息をとって頂いている。個人ごとの就寝時間や安眠できる体位を把握し、夜間不眠時や不安時は暫く付き添う等対応することで体調管理や精神面での安定を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的や副作用等を把握し、薬剤師との連携を十分取り、誤薬事故がないようスタッフ2人で確認して服薬の介助を行っている。適宜個人カルテに目を通し、薬内容の把握に努め、病状の変化等は薬剤師や担当医に報告し治療に生かされている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の生活歴を確認しご本人の得意なことや好きな事を把握するよう心掛けている。洗濯物たたみや食後のお盆拭き等のお手伝いをして頂いているが、負担にならないよう配慮している。習字、折り紙、塗り絵、ドリル、新聞読み、歌等楽しそうに実施されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別外出の実施、地域行事への参加、近所への買い物、ご家族付き添いによる受診・外出等家族の協力も頂き、できる限りの外出支援を実施したいと考えている。人員に余裕がないため、日常的な外出支援は出来ていないが、法人敷地内での桜祭りや庭先での花植え、受診付添い時の会話等で戸外の自然を感じてもらえるように配慮もしている。	入居者の身体状況や職員配置の面から、以前より近隣の散歩や買い物などをはじめ、外出の機会は少なくなっている現状である。季節や天候を見ながら、玄関先に出たり、法人敷地内の散歩など外気に触れる機会に努めている。家族の協力により外食や受診などの協力が得られている。管理者は全員での外出は困難な面もあり、今後も個別支援の充実を図っていきたいとしている。	敷地内の散歩や玄関での日光浴、リビングから外を眺め、外出の気分を味わってもらうなど、今後も個々に応じ出来得る支援に取り組まれることを期待したい。また、それらの取組を家族へも伝え、一緒に戸外に出る機会を支援いただきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	通常の買い物は職員が預り金で実施しているが、ご本人が買い物に出かけた際は、自分で支払いをされるように支援している。頭金金の管理については、「金銭出納管理委託契約書」を取り交わしたうえで実施している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会が頻回に出来ないご家族へは電話連絡を依頼し、ご本人と楽しく会話していただいている。ご本人からの電話希望にも対応し取り次ぎを実施している。利用者が手紙を書かれることはないが、ハガキ等受領時は読み聞かせし、居室等に掲示し楽しんでいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごして頂けるよう食卓の配置を工夫し、毎月趣向を凝らし作成している食堂の壁面飾りや庭の草花等で季節を感じて頂けるように配慮している。利用者が作成した「臨床美術」の作品展示コーナーは、刺激的で楽しい空間となっている。スタッフの大声やテレビの音が騒音にならないように注意している。	各ユニットは、物品の配置やリビング食堂、居室廊下の飾り付けなど、それぞれの職員が工夫しながら季節感や居心地よく過ごせる環境に努めている。共用空間は特に臭気に気を付け、室温管理も季節や入居者に確認しながら設定している。冬場の感染症の時期は特に、換気や加湿器、小まめな掃除を徹底し、入居者の健康管理に配慮した環境に努めている。臨床美術の作品の掲示や職員の特技を活かした見事な切り絵が心安らぐ空間を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合わない利用者同士の椅子の位置を離したり、気の合った同士でテーブルを一緒にできるよう、またテレビの好きな方は見えやすい位置に座って頂けるようテーブルの配置等工夫している。利用者は自由にリビングと居室を行き来している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と話し合い、使い慣れた筆筒や家族写真、入居後に作成した臨床美術の作品を置き、これまでの生活の継続と安心して穏やかに居心地良く生活できるよう支援している。夜間の明かり遮断やプライバシー確保の為、居室ドアに布をつけている。	入居時に備え付けの品の説明と、居心地よい環境作りとなるよう、本人の好みの品や安心できる物(タンスや仏壇・家族の写真など)の持ち込みを伝えている。中には携帯電話を持ち込まれた方もおられる。これまで自宅に持ち込品の確認や搬送の手伝いを行った事例もある。加湿器の設置や移動しやすい物品の配置、衣替えなど、家族の協力や相談を行いながら居室環境を整えている。	居室の様態替えを楽しんでいた入居者も、以前のように取り組まれる機会も少なくなっているようである。今後本人のできなくなった事や希望を察し、一緒になって居室作りに努めたいことを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やフロアに無駄な物をおかず、広々として歩きやすい環境を保っている。共有場所には手すりが設置してあり、動線も分かりやすく、居室が分からない方には、ご本人がスムーズに行動出来るように表示している。転倒事故防止の為居室床にクッション材を使用したり、車イスのフットレストにカバーを付けるなど安全の為工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370102115		
法人名	医療法人 祐基会		
事業所名	グループホーム六花苑 2Fユニット		
所在地	熊本市中央区帯山4丁目6-31		
自己評価作成日	平成31年 1月 10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成31年 1月 23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○家庭的で安心できる環境の中で、利用者の「想い」や「そのらしさ」を大切に、笑顔で自由に生活できるよう援助しています。年間を通した季節の行事、手作りの料理やおやつ、ロビーの壁面を彩る季節感あふれる手作りの壁面飾り等に取り組み、利用者楽しく生活して頂ける様心掛けています。
 ○同法人内の医療機関(帯山中央病院)が隣接しているため、日常の健康管理から救急時や病状悪化時などの対応がスムーズにでき、安心できます。
 ○認知症の進行を遅らせ予防する効果が注目されているアートセラピー「臨床美術」を継続的に取り入れ、作品制作の楽しみや達成感は勿論、作品作りは五感を刺激し脳を活性化し、上手い下手に捉われず表現できる解放感と、褒められる喜びが自身の存在価値を高め、生きる喜びが引き出されます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアーに掲示し、毎朝の申し送り時には全員で唱和している。ケアを実施する判断基準は、理念にあることを共通認識とし日々実践に繋げている。また、「理念に基づいた介護」を部署目標とし、法人の人事考課制度の中に組み入れ、定期的な評価できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の買い物は地域の商店を利用している。また、自治会に加入し回覧版のやり取りや、防災訓練、運動会等の町内行事に積極的に参加し、地域の方と交流を図っている。また、老人会等のボランティア訪問や文化祭への参加等は、利用者にとっても待ち遠しい楽しい行事となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で自治会・老人会・民生委員の方々に認知症についての知識や対応要領等について説明助言を行っている。また、見学や入居申し込みに来られた方に対して、介護相談に対応したりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、運営方針・サービス状況・利用者の状態や活動内容等を写真や資料を基に報告し、情報・意見交換を行い、利用者のご家族、地域の方々から要望や助言をいただきサービスの向上に努めている。会議にはスタッフも参加し、自己紹介や意見交換をし地域の方々との親睦も図っている。議事内容は参加していない職員やご家族へも配布し状況をお知らせしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に包括支援センター職員の参加があり、意見交換し情報を得ている。また、介護相談支援員の訪問時意見交換を行い、また報告書により全員が内容を把握しケアに反映させている。必要時行政機関へは報告相談等実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内勉強会で身体拘束をしないケアについて再確認し職員の意識を高めている。非常口にはセンサーを設置し、職員が一人になる夜間帯等是不審者侵入防止も兼ね施錠をしている。スピーチロックとならないように言葉かけにも注意している。車椅子は移動手段として使用し生活スタイルの保持に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止や不適切ケア見直しの研修会に参加し、ミーティング時に勉強会を行い、言葉使い、態度等も虐待にならないよう互いに注意し合い意識の統一を図っている。また、利用者の入浴の際に、全身状態の観察を行い、常に状態変化に注意している。また、職員がストレスを溜めこまないよう心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用されている方もおり、プラン説明や面会時に後見人の方から意見、要望、助言を頂き、学ぶ姿勢を心掛け、関係性を深め、職員間で共有し支援が円滑にいくよう心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明は、相手の年齢や理解度に応じた分かりやすい説明を心掛け、質問には納得されるまで説明し同意を得ている。説明は主に管理者が実施しているが、変更内容は職員にも周知させ問合せにも対応できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族へは運営推進会議参加時やケアプラン説明時、面会時等に直接意見要望等を確認している。玄関に意見箱を設置しているが、意見少なく家族アンケートも実施している。クリスマス会には多数の家族が参加し、互いに意見交換がなされている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議や毎朝の申し送り時を利用し、職員の意見を聞きながらサービスの向上に反映できるようにしている。また、必要時は職員意見を介護事業部長や関係部署へ直接意見具申している。勤務割は職員の希望を考慮し各ユニットリーダーと共に作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	組織の活性化と人材育成のため、法人内で人事考課制度が導入されており、年2回各職員ごとに目標、実施、評価を面接しながら行い、賞与等にも反映されている。各業務内容の精査・整理を指示、休憩時間を確保できるように働きかけている。労働時間は守られているが、超過勤務の場合は超過勤務手当が適正に支給されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の案内等を職員に広く広報し、法人内研修や外部研修の機会を作っている。法人内研修不参加者は各自資料を確認しレポートを提出している。スタッフ会議時には外部研修の報告を通して、他の職員への情報提供、共有を図っている。法人内研究発表会には毎年参加し発表している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	看護協会や県のGH連絡会からの情報収集に心掛け、積極的に研修会に参加している。また、包括支援センター主催の地域推進協議会懇親会に参加し他事業所との情報交換を実施。法人内グループホームとは常に情報や事例を共有している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に関係者やご家族から情報を得たり、入居面談時からご本人やご家族に心身の状況や希望を確認し、できるだけご本人の意向に沿った対応を心掛けている。ご本人が安心して生活できるようによく観察・声掛けし、必要時はご家族の面会などの協力もお願いしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	キーパーソンを中心にご家族、後見人の方の話を傾聴し、出来るだけ相手の立場で考え、思いを受け止め、方向性を調整し、「ご家族と共に」利用者を支える事が出来るように関係づくりに心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のスタッフに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談や要望をもとに、主治医の意見も取り入れ、ご本人やご家族にとって今何が必要なのか優先順位を考え、納得が得られ安心して支援が受けられるよう検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の自主性を尊重した上で、できる事を皆で行う雰囲気作りをしている。職員と利用者は介護する・される関係だけではなく目線を同じくするよう心掛け、喜怒哀楽を共にしながら互いに支え合い楽しく過ごせる関係づくりを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人にとってご家族の存在、支援はかけがえないものだという事を常に念頭に置き、また、ご家族にも伝え、共に支えて行く関係作りを心掛けている。ご家族へのお便りを毎月発送し、その中で利用者の1か月間の様子をお伝えしたり、行事の写真を入れ、ホームを身近に感じて頂けるように工夫している。担当スタッフからのコメントを同封しているが、利用者の生活の様子がよくわかり、また職員を身近に感じられると好評である。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院や友人の来所等関係の継続や馴染みの場所での買い物等、出かける場所を積極的に作り、生き生きと生活が継続出来るように、社会との関わりの支援に努めている。特に大切な家族との関係が途切れないよう面会や外出を依頼し、面会時はゆっくり過ごしてもらえるよう配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話やかかわりを観察、見守りを行い、効果的な席替えを検討したり、臨床美術や、同じ作業、レクリエーションを通して利用者同士がコミュニケーションを図れるように関わっている。トラブルになりそうな時は、職員が間に入りトラブルを回避している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のスタッフに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他の事情で、退居されサービスの利用が終了した場合も、入院先を尋ねたり、ご家族や相手先に、入居中の状況、習慣、好みや気づき、ケアの工夫等の情報を提供し、相談に応じ安心して継続した支援が行えるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人おひとりの思いや意向について、否定的な言葉は使わず、ゆっくり心を寄せ、思いを把握するように心がけ、混乱や把握が困難な場合は、時間をかけ寄り添い、ミーティングを重ね問題解決に取り組む、家族からも情報を収集して本人の思いに添うよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の馴染みの暮らしや、大切にされている事、援助を受けられる際のご本人の嫌な行為や言葉かけ等、生活歴やフェイスシート、ご本人に関わって来られた方からの情報等を把握し、戸惑いが無く生活が継続出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事、休養、活動、睡眠、一日の過ごし方等個人個人の状況や気付きを、個人カルテや連絡ノート等に日々記録し、職員間で情報共有し、勤務交替時は引き継ぎを確実に実施し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の希望に沿ったプランを作成し、必要時追加・変更を行っている。入居者を職員の担当制とし、定期的にモニタリングを行い、毎月のスタッフ会議等でケアを検討し、利用者個々に合わせた自立支援ができるよう介護計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の担当者を中心に日々の実践の中で気づきやケアの工夫等、介護記録に記入し、職員間で情報の共有に努め、必要時には、介護計画の見直しを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お一人おひとりのニーズに合わせ、ボランティアの支援やご家族の協力を得たり、その時のニーズに応じて柔軟な対応で支援が出来るように心掛けている。認知症の進行を抑えるために、「臨床美術」を積極的に実施し、また訪問理美容を希望される方には調整している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加、近所への散歩、ボランティアの訪問等、馴染みの関わりの働きかけで、生き生きと安全に安心した生活が継続出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内医療機関による訪問診療、専門医(精神科・眼科・歯科)の往診(訪問診療)等を選択できるような医療環境を提供するとともに、体調変化時はご家族に連絡の上専門医等への通院支援も実施し、ご本人及びご家族の希望の医療が受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護職員がおり、また、法人内医療機関の支援もあり「看護師との24時間連絡体制」は確立されている。利用者の身体の異常、病状悪化時は適宜報告相談し、お一人おひとりの健康管理や医療支援に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して医療が受けられるように、日々の暮らし方や大切にされていること等の情報提供を行い、ご本人ご家族が安心されるようにご家族との情報交換に努め、医療関係者、ご家族と協議を重ね早期退院に向けて取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合における指針、事前指図書を説明し確認している。病状が重度化した場合は、状況に合わせてご家族・医師・看護師・関係者と早期に話し合いを行い方針を決め支援している。家族アンケート、看取りに関する勉強会、手順や物品の準備等実施しホームでの看取り体制を整備した。今年度は利用者3名のホームでの看取りを実施した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に適切な対応が出来るように、急変時の連絡体制、AEDの操作要領等マニュアル化し実技指導も入れながら訓練している。スタッフ会議の際、ヒヤリハットや事故報告書の振り返りで介護技術の習得やレベルアップに努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内で年2回(日中と夜間想定)、地域でも年1～2回の訓練に利用者と参加し、地域での協力体制が築かれるよう努めている。台風接近時等はマニュアルに従い事前準備を実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳をもって言葉をかけ対応するように心がけ、個人の人格を損なう事のない様に接している。人生の先輩である事を念頭に置き、不適切な言葉遣いや大声での会話等は互いに注意しあっている。入居時には利用者の呼び名をご本人やご家族に確認している。排泄等の介助時は必ずドアを閉め実施している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来るように場面作りに心掛け、ご本人の出来る事、出来なくなって来ていることや、やりたくない事を表情や言葉の中で見極め、出来るだけ、ご本人の今の思いに寄り添い支援できるようにスタッフ全員心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々生活のリズムを考慮しながらも、職員側の都合やペースに合わせた支援ではなく、お一人おひとりのペースに添い、その日の状態に合わせた柔軟な暮らしを心掛け支援している。食後の休息や就寝・起床時間等もご本人の体調や様子に合わせて対応、レクリエーションへの参加や家事手伝いも、本人の意向を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のスタッフに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔に気を配り、出来る限りご本人の要望にかなう身だしなみや季節感に合う支援に心がけている。洋服選びを一緒に行いオシャレを楽しむ雰囲気を作っている。男性利用者には毎朝の髭剃りセッティングを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人に合わせた食形態、食事量とし、献立の説明等し、スタッフが利用者と一緒に楽しく会話をしながら食事をしている。料理の継ぎ分けや、茶碗拭き、お盆拭き、テーブル拭き等利用者と一緒に食事準備や後片付けを行っている。食事中は、台所の作業も中断し静かな音楽をかけ落ち着いて食事が出来る環境を整えている。検食者は検食簿に意見を記入し、業者への調整や調理に反映させている。献立は季節に応じたものとなっているが、寿司会食、おせち料理、パン朝食、レクリエーションとしておやつ作りを実施する等食を楽しめるよう工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量(飲水量)のチェック、体重測定等により栄養状態の把握をし、利用者の状況により声掛けや食事介助を実施し、栄養補助食品の利用や、刻み・トロミ・ミキサー食等の食材の工夫や、食器の変更等工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後お一人おひとりに合った声掛けや援助方法で口腔内の清潔保持に努めている。ご本人、ご家族の要望や必要性をもとに訪問歯科の導入を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員間で話し合いを持ち、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄を目指し、利用者に合わせて排泄支援ができる様にしている。昼夜別にオムツを使い分けたり、夜間はポータブルトイレを使用している方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のスタッフに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロール表で各個人の排便状況を把握し、好みの副菜や飲み物等の工夫で必要な食事・水分量が摂取できるように留意している。便秘時は、早朝の冷水・牛乳等摂取や体操、腹部マッサージ等で改善を図り、自然排便を心掛けているが、必要時は医師の指示にて緩下剤の与薬支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2～3回を目途に入浴予定はその都度決めているが、声かけを工夫し無理強いにせず気分良く入浴して頂くよう留意している。身体状況により1人ないし2人で介助し安心してゆっくり入浴できるようにしている。必要な方へは足浴も実施している。入浴後のスキンケアも必ず実施している。拒否が見られる方には、時間を変えたり、スタッフを替えたりしながら対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中必要な方には食後の休息をとって頂いている。個人ごとの就寝時間や安眠できる体位を把握し、夜間不眠時や不安時は暫く付き添う等対応することで体調管理や精神面での安定を図っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的や副作用等を把握し、薬剤師との連携を十分取り、誤薬事故がないようスタッフ2人で確認して服薬の介助を行っている。適宜個人カルテに目を通し、薬内容の把握に努め、病状の変化等は薬剤師や担当医に報告し治療に生かされている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の生活歴を確認しご本人の得意なことや好きな事を把握するよう心掛けている。洗濯物たたみや食後のお盆拭き等のお手伝いをして頂いているが、負担にならないよう配慮している。習字、折り紙、塗り絵、ドリル、新聞読み、歌等楽しそうに実施されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別外出の実施、地域行事への参加、近所への買い物、ご家族付き添いによる受診・外出等家族の協力も頂き、できる限りの外出支援を実施したいと考えている。人員に余裕がないため、日常的な外出支援は出来ていないが、法人敷地内での桜祭りや庭先での花植え、受診付添い時の会話等で戸外の自然を感じてもらえるように配慮もしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	通常の買い物は職員が預り金で実施しているが、ご本人が買い物に出かけた際は、自分で支払いをされるように支援している。頭かり金の管理については、「金銭出納管理委託契約書」を取り交わしたうえで実施している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会が頻回に出来ないご家族へは電話連絡を依頼し、ご本人と楽しく会話していただいている。ご本人からの電話希望にも対応し取り次ぎを実施している。利用者が手紙を書かれることはないが、ハガキ等受領時は読み聞かせし、居室等に掲示し楽しんでいただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごして頂けるよう食卓の配置を工夫し、毎月趣向を凝らし作成している食堂の壁面飾りや庭の草花等で季節を感じて頂けるように配慮している。利用者が作成した「臨床美術」の作品展示コーナーは、刺激的で楽しい空間となっている。スタッフの大声やテレビの音が騒音にならないように注意している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合わない利用者同士の椅子の位置を離したり、気の合った同士でテーブルを一緒にできるような、またテレビの好きな方は見えやすい位置に座って頂けるようテーブルの配置等工夫している。利用者は自由にリビングと居室を行き来している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と話し合い、使い慣れた筆筒や家族写真、入居後に作成した臨床美術の作品を置き、これまでの生活の継続と安心して穏やかに居心地良く生活できるよう支援している。夜間の明かり遮断やプライバシー確保の為、必要時居室ドアに布等をつけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やフロアに無駄な物をおかず、広々として歩きやすい環境を保っている。共有場所には手すりが設置しており、動線も分かりやすく、居室が分からない方には、ご本人がスムーズに行動出来るように表示している。車イスのフットレストにカバーを付けるなど安全の為工夫している。		